

## シラバス情報

授業方法	講義 ・ 実験 ・ 実習		
系 列	実 習		
科 目 名	電装整備		
必修・選択	必修科目 ・ 選択科目		
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科自動車整備士コース		
年次学期・曜日・時限	2年前期	・ 月～水曜日	・ 1時限～8時限
時 限 数	121.6時限（期末試験を除く）		
担当教員名	溝田 稜・竹森 翔・山光 史哲		
実務経験	有 ・ 無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となる電装品の構造・点検及び実車からのスタータ・オルタネータの脱着作業についての実習を実施する。		
授業の目的	1年生での実習内容の復習 実車を使用してのスタータ・オルタネータ脱着作業の習得		
テキスト	①電装品構造 (国土交通省自動車交通局推薦) ②三級自動車ガソリン・エンジン (日本自動車整備振興会連合会 発行) ③二級ガソリン自動車・エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会 発行)		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第1回	スタータ・モータ分解・ 組立て・点検	点検・測定 回路・作動の習得	①・②・③
第2回	オルタネータ分解・組立て・ 点検	点検・測定 回路・作動の習得	①・②・③
第3回	ボルテージ・レギュレータ	回路・作動の習得 故障状態の確認	①・②・③
第4回	実車スタータ・オルタネータ 脱着1	注意点レポート ジャッキアップ注意点レポート	①・②・③
第5回	実車スタータ・オルタネータ 脱着2	注意点レポート	①・②・③
第6回	実車スタータ・オルタネータ 脱着3	注意点レポート	①・②・③
第7回	実車スタータ・オルタネータ 脱着4	注意点レポート バッテリー点検CCAテスト	①・②・③
第8回	まとめ	5ステップの復習 レポート提出	①・②・③
	ステップ試験（中間試験）	第1回～第8回までの授業内容に関する実 技試験	
到達目標	スタータ・オルタネータの点検・回路を習得。 実車でのスタータ・オルタネータ脱着作業・注意事項を習得。		

授業の目的	整備を行う上で必要となるオシロスコープ・ハイブリッド自動車の取り扱いの理解及び電装品の構造・脱着作業の習得。		
テキスト	①電装品構造 (国土交通省自動車交通局推薦) ②三級自動車ガソリン・エンジン (日本自動車整備振興会連合会 発行) ③二級ガソリン自動車・エンジン編 (日本自動車整備振興会連合会 発行)		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第 9 回	オシロスコープ ハイブリッド	実車を使用しての取扱いの注意点を説明	①・②・③
第 10 回	①定電圧回路、②スイッチング回路 ③ベンチエンジン (オシロスコープ)	①・②ボード上に回路作成・測定 ③オシロスコープを使用して測定	①・②・③
第 11 回	①定電圧回路、②スイッチング回路 ③ベンチエンジン (オシロスコープ)	①・②ボード上に回路作成・測定 ③オシロスコープを使用して測定	①・②・③
第 12 回	①定電圧回路、②スイッチング回路 ③ベンチエンジン (オシロスコープ)	①・②ボード上に回路作成・測定 ③オシロスコープを使用して測定	①・②・③
第 13 回	①ハイブリッド ②エアコン ③P/Wレギュレータ脱着	①低圧電気回路説明・測定 ②実物をスケッチ・役割・名称 ③実車よりP/Wレギュレータ脱着・スケッチ	①・②・③
第 14 回	①ハイブリッド ②エアコン ③P/Wレギュレータ脱着	①低圧電気回路説明・測定 ②実物をスケッチ・役割・名称 ③実車よりP/Wレギュレータ脱着・スケッチ	①・②・③
第 15 回	①ハイブリッド ②エアコン ③P/Wレギュレータ脱着	①低圧電気回路説明・測定 ②実物をスケッチ・役割・名称 ③実車よりP/Wレギュレータ脱着・スケッチ	①・②・③
第 16 回	まとめ	6ステップの復習 レポート提出	①・②・③
	ステップ試験 (中間試験)	第9回～第16回までの授業内容に関する 実技試験	
	期末試験	第1回～第16回までの授業内容に関する 実技試験	
到達目標	整備を行う上で必要となるオシロスコープ・ハイブリッド自動車の取り扱いの理解及び電装品の構造・脱着作業の習得。		
成績評価方法	平常点 (小テスト, レポートやノートの提出とその評価, 出席及び授業態度), ステップ試験 (中間試験) 並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し, レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は, 補講も完了している者。		

<p>成績評価基準</p>	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>中間試験の点数 30%</p> <p>期末試験の点数 40%</p> <p>平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p>60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>
<p>成績評価できない場合の基準</p>	<p>全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。</p>